

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/05/09

ギリシャを巡る問題が波乱要因に

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	方向感を模索する展開 予想レンジ: 78.80 ~ 81.80 円	2-4
カナダ/円	➡	原油安に歯止め、加ドルも底堅く推移 予想レンジ: 81.50~ 85.70 円	5-6
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示		7-8

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 5/2～6の主な推移

※4時間足



5/2 Monday	正午前に米政府当局者が国際テロ組織アルカイダのビンラディン氏が死亡したと発表するとドル高が進み、ドル/円は81.69円の高値をつけた(①)。その後は81円台半ばでもみ合うも、NY市場に入ると米国債利回りの低下などを背景にドル/円は上げ幅を縮小した。なお、23時に発表されたISM製造業景況指数は60.4と予想(59.5)を上回ったが、構成要素の雇用指数が前月よりも悪化しているなど好悪入り混じる内容だったことから、ドル/円相場の反応は限定的だった。
5/3 Tuesday	東京市場が祝日の中、NYダウ平均先物が下落するとクロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)で円高が進み、ドル/円でも小幅に円買い優勢となった。欧州市場でクロス円が一段と値を下げると、ドル/円も80.68円まで下落した(②)が、23時に発表された米3月製造業受注指数が前月比+3.0%と予想(+2.0%)を上回ったことなどを背景に米国債利回りが低下幅を縮小すると、ドル/円も反発した。
5/4 Wednesday	東京市場が祝日の中、アジア時間中は81.00円を挟んでもみ合いに終始。しかし、欧州市場に入り、格付け会社S&Pが「今後3カ月以内の英中銀の利上げはほぼ確実」との見解を示し、ポンド/円が上昇すると、ドル/円も81.19円まで連れ高となった。ただ、その後は上値が重く、21時15分に発表された米4月ADP全国雇用者数が17.9万人増(予想:19.8万人増)、23時に発表された米4月ISM非製造業景況指数が52.8(同:57.5)とそれぞれ予想を大きく下回る中でドル/円は80.42円まで下落した(③)。
5/5 Thursday	夕方、時間外のNYダウ先物や原油先物が下落する中でクロス円も値を下げると、ドル/円も連れ安となり79.57円の安値をつけた(④)。しかし79円台半ばでは底堅く推移。21時30分に発表された米新規失業保険申請件数が47.4万件と予想(41.0万件)よりも大幅に弱い結果になったことで、発表直後のドル/円はドル売りで反応したが、同時刻に行われた欧州中銀(ECB)の理事会後の記者会見にて、一部で期待されていた6月利上げを示唆する言葉がなかったことから、ユーロ/ドルで大幅にユーロ安・ドル高が進行すると、ドル/円も連れてドル買い優勢となった。
5/6 Friday	連休明けの東京市場で仲値公示に向けたドル需要観測が広がったことを背景に、序盤からドル/円は上昇。80円台半ばでは上値が重く推移したが、21時30分に発表された米4月雇用統計は失業率が9.0%と予想(8.8%)に対して悪化していたものの、非農業部門雇用者数が24.4万人増と予想(18.5万人)より大幅に良好な結果だった上、前月分も上方修正(21.6万人増→22.1万人増)されたことから、発表直後のドル/円は80.93円まで急騰した(⑤)。しかし、節目の81円手前で上値は重く、その後、独シュピーゲル誌が「ギリシャ政府はユーロ圏を離脱し、同国独自の通貨を再導入する可能性が高まった」と報じユーロ/円が大幅に下げると、ドル/円は上げ幅を縮小した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

今週の見通し

今週のドル/円相場は新たな方向感を模索する展開になりそうだ。

先週末の米国では、米雇用統計という一大イベントを「非農業部門雇用者数が予想より良好な結果だった」点を好感して通過したが、一方で失業率は悪化しており、手放しで米経済が好転していると言える状況でもない。今週の米国では、11日に3月貿易収支や4月月次財政収支、12日に週次の新規失業保険申請件数や4月生産者物価指数、4月小売売上高、13日に4月消費者物価指数や5月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値などの経済指標発表が予定されている。これらの経済指標結果を手掛かりに、米国経済の強さを確認していく流れになるだろう。また、今週は米国債入札(10日:3年債、11日:10年債、12日:30年債)も予定されている。これら入札動向を受けた米国債利回りの動きにドル/円が連れる可能性もある。

さらに、今週については、ギリシャの債務再編を巡るユーロ圏要人の発言や各種報道機関による観測記事などが波乱要因になってくると考えられる。ギリシャの債務再編やユーロ離脱を示唆する報道があれば、ドル/円は対ユーロでのドルや円の動きに連れて上下動するだろう。

ただ、上述の手掛かり材料などを背景にドル売りが強まる場面でも、80円を割り込み、先週の安値79.57円を試す流れになった場合は、同時に円売り介入への警戒感も広がるものと考えられる。これがドル/円相場を一定程度下支えし、下値を限定するとみられる。(ジェルベズ)

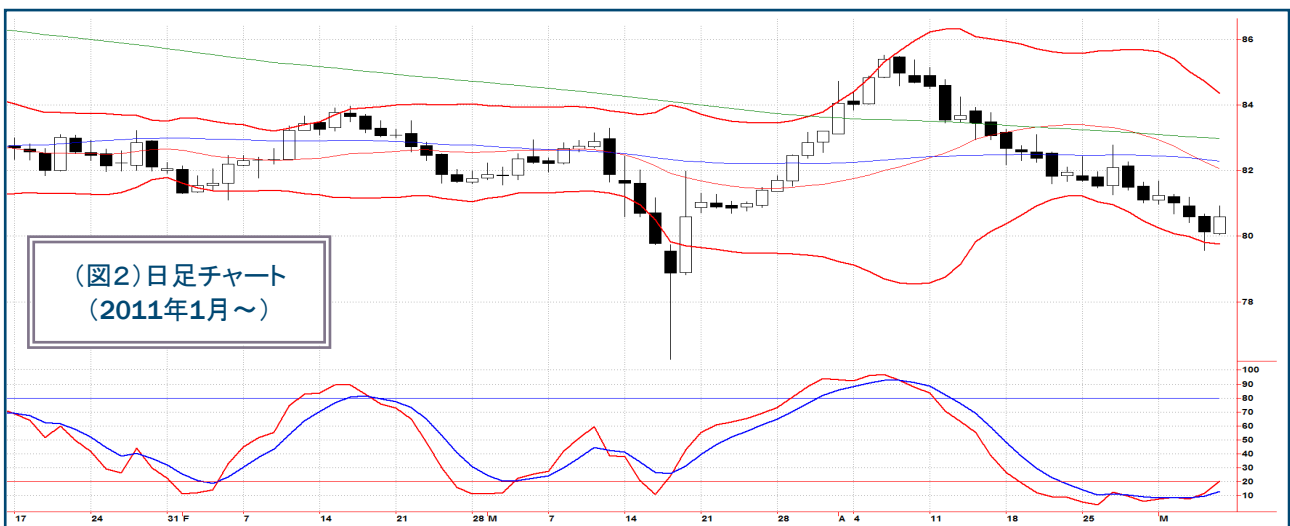
(予想レンジ:78.80~81.80円)

USD/JPY

テクニカル分析

●ドル/円 5/06週足引値:80.59円(移動平均、ボリンジャーバンドから見た相場展開)

先週は、高値81.69円～安値79.57円と2円12銭の値幅の一週間となった。先週は81円台後半で取引が始まったが、戻り高値の82円台後半から着実にドル売りが出て下落する、という展開で下落を見た1週間となった。週末の引値80.59円は、20日線(82.06円、5/06)、200日線(82.98、5/06)、60日線(82.29円、5/06)、40日線(82.16円、5/06)をすべて下回っている。日足チャート上部のボリンジャーバンド(5/06時点)は上限が84.35円、下限が79.76円であり、バンドの上限、下限ともに大きく下落しており、下落がトレンドとなっている。週足チャート(図1):先週で4週連続の陰線となった。ここ4週間、ずっと「ドル/円は下落し押し目を作っているが、そろそろ反転上昇に転じてもいいのでは」との思いを裏切って下落し続けている。今週は先週週足の下ヒゲ部分を埋める下落となるかどうかが焦点。日足チャート(図2):先週の安値79.57円から反発上昇し、先週の値幅(81.69～79.57)の半値(80.63)付近で一週間の取引を終えた。ドル/円が80円台と比較的低い水準にあると見た値頃でのドル/円買いが湧いてきそうな気配はあるが、ドル/円をこれまで買ってきた海外投機筋、日本の投資家のあまり良くない持ち値のポジションが全て解消されたわけではまだない。ドル/円は仮に上昇してもどこかでは上値を抑えられそうであり、一旦は揉み合いが先行するのかもしれないが、そこから再度きっかけ次第で「介入を警戒しながらもゆっくりとした」下落に向かいやすいと考える。78.50～81.50円(岡田)



巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 5/2~6の主な推移



5/2 Monday	国際テロ組織アルカイダの指導者ビンラディン氏が死亡したとの報道を受けて、時間外のNYダウ先物が急伸した事や、米国債利回りの上昇を手掛かりにドル/円が急上昇した事を背景にカナダ/円は86.06円の高値を付けた。(①)しかし、その後はビンラディン容疑者の死亡報道を受けて原油安が進行した事や、上昇していたNYダウ平均株価が失速した事に加え、この日行われたカナダ総選挙で、ハーパー首相率いる政権与党が過半数を獲得できない見通しと伝えられた事が嫌気され、カナダ/円は85.33円まで下落した。
5/3 Tuesday	前日のカナダ総選挙で、ハーパー首相率いる政権与党が過半数を獲得した事が伝わり、一時カナダドル買いが強まる場面もあったが、その後のNY市場では、原油価格が一時3ドル超下落し、金価格も一時20ドル超の下落となった事を背景にカナダ/円は84.58円まで下落した。(②)
5/4 Wednesday	原油や金などの国際商品価格が大幅続落となった事に加え、米4月ADP全国雇用者数(17.9万人増)や米4月ISM非製造業景況指数(52.8)がいずれも事前予想を下回った事を受けてNYダウ平均株価が80ドル超の下落となった事を背景にカナダ/円は83.80円まで下落した。(③)
5/5 Thursday	原油価格が一時100ドルを割り込むなど、国際商品価格が続落した事に加え、米新規失業保険申請件数(47.4万件)が予想(41.0万件)を大きく下回った事を受けて時間外のNYダウ先物が急落した事を背景にリスク回避の動きが強まるとカナダ/円は82.30円の安値を付けた。(④)
5/6 Friday	加4月雇用統計で、失業率が7.6%に改善(3月は7.7%)し雇用ネット変化は5.83万人増と予想(2.00万人増)を上回る増加幅を記録した。この結果を受けたカナダドル買いに加え、その後発表された米4月雇用統計で、非農業部門雇用者数が24.4万人増と予想(18.5万人増)を大幅に上回った事によるドル/円の上昇もあって、カナダ/円は84.45円まで上昇した。(⑤)

上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

今週の見通し

先週のカナダ/円相場は82.30円～86.06円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約2.8%の大幅な下落(カナダドル安・円高)となったが、この間、WTI原油先物価格が14%近く下落しており、資源国通貨であるカナダドルに対する下落圧力となった。しかし、6日に発表された米4月雇用統計の結果を受けて、一時95ドルを割り込んでいたWTI原油が102ドル台まで反発するなど、資源価格の下落には一旦歯止めがかかっており、今週のカナダ/円相場は比較的底堅く推移しそうだ。ただ、6日の報道で、ギリシャがユーロを離脱する可能性について報じられた事を受けて、NYダウ平均株価が上げ幅を縮小する場面があった。ユーロ圏の債務問題が再びクローズアップされるようだとも主要国の株価下落につながり、カナダ/円の下落要因となる可能性もあるため注意が必要であろう。(神田)

(予想レンジ:81.50～85.70円)

テクニカル分析



●カナダ/円 5/06週足引値:83.37円(日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

カナダ/円は68.35円(2009/5/06安値)から94.45円(2010/04/26高値)へと26.10円上昇したが、その後は安値78.40円(2010/08/24)⇒高値85.58円(3/10)⇒安値77.60円(3/17)⇒高値89.49円(4/08)となっている。取引値は200日線(82.80円、5/06)よりも上値に位置しているが、60日線(84.85円、5/06)や20日線(85.75円、5/06)を下回って来ている。ボリンジャーバンドは5/06現在、上限88.26～下限83.23円であり、バンドは上限、下限ともに下落している。

4/08に直近高値の89.49円を見てから下落の流れとなっている。先週は60日線を割り込んで下落が加速した。下値は200日線に支えられているが、もう一段の下落があるかどうか焦点であり、意外に81～85円のレンジ入りかもしれない。

上値ポイントは①84.85円(60日線、5/06段階)、②85.75円(20日線、5/06段階)であり、下値ポイントは①82.80円(200日線、5/06段階)、②82.30円(5/05安値)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (5/9~12)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/9	15:00		(独) 3月経常収支	+89億EUR	—
(月)	15:00		(独) 3月貿易収支	+121億EUR	—
	21:15		(加) 4月住宅着工件数	18.88万件	18.30万件
5/10			香港休場(ブッダ・フェスティバル)		
(火)	10:30	○	(豪) 3月貿易収支	-2.05億AUD	—
	16:15		(スイス) 4月消費者物価指数 [前年比]	+1.0%	+0.6%
	21:30		(米) 4月輸入物価指数 [前月比]	+2.7%	+1.8%
	23:00		(米) 3月卸売在庫 [前月比]	+1.0%	+1.0%
	26:00	○	(米) 3年債入札(320億ドル)	—	—
5/11			(日) 3月景気動向指数・速報 [先行CI指数]	104.2	99.8
(水)	14:00		(日) 3月景気動向指数・速報 [一致CI指数]	106.8	103.6
	15:00		(独) 4月消費者物価指数・確報 [前月比]	+0.2%	—
			(独) 4月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.4%	—
	17:30	○	(英) 3月商品貿易収支	-67.76億GBP	-77.00億GBP
	18:30	◎	(英) BOE四半期インフレレポート	—	—
	21:30	○	(米) 3月貿易収支	-458億USD	-470億USD
	21:30		(加) 3月国際商品貿易	±0.0億CAD	±0.0億CAD
	27:00	○	(米) 4月月次財政収支	-1882億USD	-650億USD
	26:00	○	(米) 10年債入札(240億ドル)	—	—
5/12	08:50		(日) 3月経常収支	1兆6410億円	1兆7375億円
(木)	08:50		(日) 3月貿易収支	7233億円	3034億円
	10:30	◎	(豪) 4月新規雇用者数	3.78万人	—
	10:30	◎	(豪) 4月失業率	4.9%	—
	14:00		(日) 4月景気ウォッチャー調査 [現状判断DI]	27.7	—
			(日) 4月景気ウォッチャー調査 [先行き判断DI]	26.6	—
	17:00		(ユーロ圏) ECB月例報告	—	—
	17:30	○	(英) 3月鉱工業生産 [前月比]	-1.2%	+0.8%
	17:30		(英) 3月製造業生産高 [前月比]	±0.0%	+0.4%
	18:00	○	(ユーロ圏) 3月鉱工業生産・季調済 [前月比]	+0.4%	—
	21:30	◎	(米) 3/7までの週の新規失業保険申請件数	47.4万件	—
		○	(米) 4月生産者物価指数 [前月比]	+0.7%	+0.6%
	21:30	○	(米) 4月生産者物価指数 [コア: 前月比]	+0.3%	+0.2%
		○	(米) 4月生産者物価指数 [前年比]	+5.8%	+6.5%
		○	(米) 4月生産者物価指数 [コア: 前年比]	+1.9%	+2.1%
	21:30	◎	(米) 4月小売売上高 [前月比]	+0.4%	+0.6%
		◎	(米) 4月小売売上高 [前月比: 除自動車]	+0.8%	+0.6%
	21:30		(加) 3月新築住宅価格指数 [前月比]	+0.4%	—
	23:00		(米) 3月企業在庫 [前月比]	+0.5%	+0.9%
	未定	○	(南ア) SARB政策金利発表	5.5%	—
	26:00	○	(米) 30年債入札(160億ドル)	—	—

経済指標カレンダー (5/13)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/13 (金)	15:00	○	(独) 第1四半期GDP・速報値 [前期比]	+0.4%	—
		○	(独) 第1四半期GDP・速報値 [前年比]	+4.0%	—
	18:00		(ユーロ圏) 第1四半期GDP・改定値[前期比]	+0.3%	+0.6%
			(ユーロ圏) 第1四半期GDP・改定値[前年比]	+2.0%	+2.3%
	21:30	◎	(米) 4月消費者物価指数 [前月比]	+0.5%	+0.4%
		◎	(米) 4月消費者物価指数 [コア: 前月比]	+0.1%	+0.2%
		◎	(米) 4月消費者物価指数 [前年比]	+2.7%	+3.1%
		◎	(米) 4月消費者物価指数 [コア: 前年比]	+1.2%	+1.3%
	22:55	◎	(米) 5月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	69.8	70.0

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com